

# 巻 頭 言

常務取締役 木村 眞 祐



前回、建材特集号（Vol. 24 No. 3 1992）を出してから6年が経ちました。この間の社会環境の変化はバブルの崩壊に代表されるように、まことに著しいものがあります。また、阪神・淡路大震災といった未曾有の大災害があったこともいまだに記憶に新しいといえるでしょう。土木・建築用建材もこれら世の中の動きに合わせ、自ずと形を変えてきました。たとえば、当然のことですが、耐震に関する研究が官民あげて精力的になされました。この結果、川崎製鉄技報でも特集号を組んで報告したほど、数多くの新材料や新工法が生み出されました（耐震特集号 Vol. 30 No. 1 1998）。

今回の建材特集号では、上記の耐震特集号上梓以降に新たにラインアップした製品としてTMCP製極厚H形鋼と地すべり抑止鋼管杭用メカニカル継手を取上げるとともに、最近の社会ニーズに対する川崎製鉄グループの取組状況についても概略を説明しています。また、川崎製鉄グループで新規に開発した商品のいくつかはシステムビル的一种である「ニューエクセルコア」で実際に使われていますので、詳細は記事をご参照下さい。さらに、鋼管杭に関しては、一種の歴史的な解説書として読んでいただいても面白いものとなっていると思います。

前回の特集では、いわゆる「意匠系」の建材を数多く紹介しましたが、今回も金属系製品としては取付け用ボルトが建物の外側から見えず、すっきりとした外観になる「ボルトレスサイディング」や住宅用屋根材2種を紹介しています。また、1時間の耐火性能を保証する建築外装パネル「ファサードィア」に加え、透明ガラス系間仕切り壁である「GPX WALL-1h」も新規に開発しました。特に、後者は病院や高齢者福祉施設など、今後の社会的ニーズにも即した商品ですので、ご愛顧をよろしくお願い致します。

もちろん、構造系商品は川崎製鉄がもともと注力してきたものです。本特集号では治山・治水を目的とした「L型スリットダム」、橋梁用防護柵、大規模空間が構築可能な構造デバイスなど、それぞれに特徴を持った商品をご紹介します。

最近、社会的ニーズを反映して、ますますコスト縮減・環境・安全などの観点を満足した建材商品・工法の開発が強く求められています。

私どもは、皆様方からのご意見・ご教示を得ながら積極的にニーズに応えた開発を推進していく所存です。よろしくご支援のほどお願い申し上げます。